



いよいよ本格的ロボット手術時代到来 –ロボット手術センターが始まります–

ロボット手術センター長 泌尿器科 杉元 幹史

ロボット手術の始まり

ロボット手術とは、術者が遠隔操作によって直接患者さんに触れるロボットアームを操作して手術を行うものです。元々は1980年代後半にアメリカ陸軍の要請で開発されました。それ以降は民間で開発が進み、2000年にはアメリカ食品医薬品局で正式に医療器械として承認されました。わが国では2012年4月には前立腺がん手術がはじめて保険収載され、その後急速に普及してきています。2017年末現在、わが国では285台が導入されており、アメリカに続く世界第二位のロボット大国となっています。

ロボット手術の特徴

ロボット手術でのアーム動作の自由度は、通常の腹腔鏡手術とは比べものにならないほど高く緻密な動きが可能です。またどんな手術の名人にも手の震えは必ずあるものです。その点、ロボット手術ではその手の震えを完全に吸収するため、全くブレのない手術手技が実現可能です。つまり通常の手術では決して及ばない、高精度で完成度の高い手術が実現できるのです。

本格的なロボット手術時代の幕開け

香川大学附属病院では、2013年にロボット手術を導入いたしました。今年の3月までわが国では泌尿器科の前立腺がん手術、腎臓がんに対する腎部分切除術の2つの術式のみが保険診療をして認められていました。この4月からは、新たに12のロボット手術術式が保険適応になりました。泌尿器科では膀胱癌に対する膀胱全摘除術が、また消化器外科、呼吸器外科、婦人科、心臓血管外科領域でもそれぞれいくつかの術式がロボット手術で行えるようになりました。いよいよ本格的なロボット手術時代の幕開けです。

ロボット手術センターの役割

ロボット手術を広く行っていくためには安全性の担保が必須です。この素晴らしいロボット手術を患者さんに安全に提供することを目的として、本年7月1日にロボット手術センターを設立いたしました。さらに、新しい術式のスムーズな導入および効率的な運用に加えて、ロボット術者の育成も目指しております。

安全性を担保するために、われわれは手術中止基準を作成しています。手術中の出血量や手術時間がある一定の基準を超過した場合にはロボット手術センターがその手術に対して中止勧告を発令する権利を持ちます。第三者の冷静な観点から判断することによって、患者さんの安全性を最大限に確保いたします。

おわりに

いくらテクノロジーが進化しても、それを使うのは人間です。プロの医療者として、常に高い倫理観を持っておかないと逆に機械に使われるようになる危険性があります。われわれは質の高い、本当に患者さんにメリットのあるロボット手術を目指して精進いたします。これからの香川大学ロボット手術センターの活躍にどうぞご期待ください。

ロボット手術センター

麻酔・ペインクリニック科 手術部 材料部 ME機器管理センター 看護部	【業務】 ・安全な実施 ・効率的な運用 ・術者の育成 ・新規術式の検討 ・手術の評価、監査	周産期科女性診療科 心臓血管外科 消化器外科 呼吸器外科 泌尿器・副腎・腎移植外科
---	---	---



7月7日(土)・8日(日)の2日間に渡り、平成30年度第1回緩和ケア研修会が行われました。

研修会日は九州地方・西日本において記録的な大雨に見舞われましたが、悪天候にも関わらず本院の医師23名、学外の医師7名、計30名が研修会を受講されました。

この研修会は、がん診療に携わる医師が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得することを目標としています。どの参加者も講義、グループワーク、ロールプレイを熱心に受講され、有意義な時間を過ごされました。参加者全員、2日間の研修会を無事修了し、厚生労働省からの修了証書を授与されることになりました。



その体重減少、バセドウ病かも?

内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学 准教授 井町 仁美

急激に体重が減少すると、周囲の人もびっくりにして病院受診を勧められると思います。体重減少は重篤な病気の症状の1つであるので、病院受診して原因を捜すことは重要なことです。さて、体重減少をきたす疾患の一つにバセドウ病(甲状腺ホルモンが増加する病気)があります。バセドウ病は若い女性によく認められますが、男性にも年配の方も発症します。血液中の甲状腺ホルモンが増加すると、代謝が亢進して、そのために体重減少をきたします。その他甲状腺ホルモンが増加すると、脈が速くなる、普段大丈夫であった運動量で動悸がでる、手が震えて書字が難しくなる、下痢(便通が良くなったと自覚されるかもしれません)になるなどがあります。またバセドウ病では、眼球突出したり、首の甲状腺が腫大したりします。

血液中の甲状腺ホルモンが増加する疾患は他にもありますが、特にバセドウ病は注意が必要です。病態が悪化すると心房細動という脳梗塞を起こしやすい不整脈が出現したり、心不全になったりします。また病気になったことに気がつかず、感染症、外傷などのストレスで甲状腺クリーゼという大変重篤な状態にもなります。つまりバセドウ病は、早く診断し早く治療することが重要です。

バセドウ病の治療法は、薬(抗甲状腺薬)の内服、放射線(アイントーブ)治療、外科的手術の3つがあり、内服治療がよく選ばれています。これら治療で甲状腺機能が正常になると、代謝が正常化し、消費カロリーに比べて摂取カロリー過多になると、体重が増えやすくなります。内服治療は長期になりますので、服薬を中断される人もいるかもしれません。しかし、甲状腺クリーゼの誘因としては抗甲状腺薬の服薬中止や不規則な服用も含まれますので、規則正しく内服を続けていくことが重要です。

バセドウ病治療がうまくいくと、多くの患者さんでは体重増加を認めます。体重増加は高血圧症、脂質異常症、糖尿病などの発症や悪化の原因になるため、食べ過ぎや運動不足など生活習慣には注意が必要です。一般的に女性の場合は太るより痩せるほうが受け入れやすいと思いますが、時にバセドウ病などの疾患が隠れている場合もあります。体重減少にも注意を払う必要があります。

肺炎は、日本人における死亡原因の3位であり、肺炎死亡者に占める65歳以上の高齢者の割合は95%以上です。近年は男女ともに平均寿命は80歳を超え、健康寿命を延ばすことが大切と考えられます。そこで、肺炎と向き合うための4つのポイントを挙げました。まず1点目は、「肺は外敵から攻撃されやすい臓器である。」ことから、外敵を侵入させないことです。そのために手洗い、うがい、咳エチケットの大切さをお話ししました。次に2点目として「かぜ症候群の原因の大半はウイルス」であり、インフルエンザに対してはワクチンが有用であり、他のウイルスには対症療法を行うこととなります。3点目としては「肺炎の原因の大半が細菌」によるものであるということです。そこで、ウイルス性と細菌性の感染の見分け方について、そして肺炎の原因菌として頻度の最も高い肺炎球菌について説明しました。肺炎球菌にもワクチンが開発されており有用性が示されています。最後に4点目として「近道として誤嚥を減らすこと」を挙げました。高齢者においては誤嚥を来しやすい合併症を持っていることが多く、誤嚥性肺炎の頻度が最も高い病態は脳梗塞です。その予防のために大切なのは“口腔ケア”であり、普段からの歯磨きが大切であるという話でした。

上記の話に興味湧いた方は、是非ケーブルメディア四国による編集で香川大学医学部附属病院のYou Tubeチャンネルで視聴が可能ですので、ご覧いただけると幸いです。

※第26回イキイキさぬき健康塾(平成29年6月18日開催)の講演内容を要約したものです。

生活習慣病の食事の摂り方の工夫

臨床栄養部 管理栄養士 早川 幸子

テレビ・雑誌などで、生活習慣病の食事について取り上げられることが多く、「〇〇が体によい、△△が□□に効く」など、よく耳にします。

栄養素にはそれぞれのよさがありますが、偏り過ぎるのもよくありません。健康的でバランスの摂れた食生活を送れるよう、食生活を見直してみましよう。

*自分にあった適切な食事量を知る

1日に必要とするエネルギー量は人によって違い、体格や仕事量、年齢などにより変わってきます。必要エネルギー量を知って、それに見合った食事量を守りましよう。

*脂質は質と量を考え、摂り過ぎを防ぐ

脂肪は大きく、肉類・乳製品に含まれる飽和脂肪酸と青魚などに含まれる不飽和脂肪酸に分けられます。飽和脂肪酸は過剰に摂ると疾患の原因になり、不飽和脂肪酸は適量を摂れば、体によい働きをします。

*食塩は控えめに

材料の持ち味を生かし、天然だしをとり、レモン・スタチなど酸味を利用してうす味の習慣をつけましよう。食塩は1日8g以下、食事療養中の方は6g以下を目指ましよう。

*主食・主菜・副菜を揃える

主食・主菜・副菜を揃えて、1日30品目を目標にいろいろな食品で組み合わせのよい食事を摂りましよう。食品をまんべんなく摂ると、栄養素がバランスよく摂れます。

エネルギー摂取量の目安を知ろう!!

標準体重(kg)×身体活動量の目安
=1日あたりのエネルギー摂取量

【標準体重の計算】身長(m)×身長(m)×22

【身体活動量】
【25~30Kcal/体重1kg】軽労働(デスクワークが多い職業・主婦)
【30~35Kcal/体重1kg】普通労働(立ち仕事が多い職業)
【35Kcal以上/体重1kg】重労働(力仕事が多い職業)

いろいろな食品で組み合わせのよい食事を

主食:ご飯・パン・めん類
糖質エネルギー供給源

主菜:魚・肉・大豆製品などを使った料理
たんぱく質・脂質の供給源

副菜:主菜を補う野菜・海藻を使った料理
ビタミン・ミネラル・食物繊維の供給源

このほかにも牛乳・卵・果物も

主食・主菜・副菜をそろえて、1日30品目目標に

野菜をどうろう~プラス!皿~
1日野菜350g以上



小皿(小鉢)1皿程度の野菜が不足しています。
今の食生活に、もう小皿(小鉢)1皿分の野菜料理をプラスましよう。

全国平均から見た香川県は、男性は肥満傾向です。また、野菜の摂取量は280g程度と推奨される摂取量を満たしていません。長年続けてきた生活習慣を変えるのは難しいですが、一度に変えられなくても、出来るところから少しずつ変えていましよう。

※第27回イキイキさぬき健康塾(平成29年7月23日開催)の講演内容を要約したものです。

大規模地震時医療活動訓練に参加しました。

救命救急センター

国の総合防災訓練のひとつである平成30年度大規模地震時医療活動訓練が8月4日(土)に四国3県、大分県、宮崎県を想定被災県として実施されました(愛媛県は平成30年7月豪雨災害対応中のため不参加)。

当院は、県内5カ所に設置された災害派遣医療チーム(DMAT)の活動拠点本部のひとつとして、東讃地区活動拠点本部を院内に設置し、香川大学DMATをはじめ当院職員、大川広域消防、東讃保健所の担当者、広島、石川、愛知から派遣されたDMATとともに訓練を行いました。さらにBCPに沿って医学部・病院災害対策本部を設置し、活動拠点本部との連携訓練も行いました。



また高松空港に設置された、航空搬送の拠点であり救護所の役割を担う広域医療搬送拠点臨時医療施設(SCU)にもDMATを派遣し高松市民病院、回生病院のDMATとともに患者を高知県、徳島県、香川県内から受け入れ、車両やヘリコプターを使用して県内の医療機関へ搬送し、自衛隊の輸送機を使用して北海道など県外へ患者を搬送する訓練を行いました。

この訓練は毎年、想定被災県を変えながら全国で実施されており、今年度は香川県が被災県になるということで県庁をはじめ各医療機関が準備をしてきました。時間をかけて準備を行っても訓練を通して多くの課題が浮き彫りになり、日ごろからの準備がなければ災害発生時の混乱は避けられないということを痛感しました。

県内の医療機関の皆様とは、日ごろから連携して県民の皆様には医療サービスを提供しておりますが、災害時の連携に向けた取り組みも普段から行っていきたいと考えております。

臨床研究に関するご案内

医学部倫理委員会委員長
治験審査委員会委員長
臨床研究審査委員会委員長

香川大学医学部附属病院では、診療に伴って取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録や尿・血液等の検査試料、生検組織(内視鏡検査で検査のために採取した組織等)又は摘出組織等の試料が発生します。

それら記録試料等を本院は、医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

前向き研究(研究を立案、開始してから新たに生じる事象について調査する研究)に患者さんの情報を利用する場合は、書面により患者さんの同意をいただくことといたします。後向き研究(過去の事象について調査する研究)の場合は下記 URL に示しております。

利用目的の中に同意しがたいものがある場合は、1階外来ロビー内個人情報相談窓口または各診療科までお申し出ください。特段のお申し出がない場合は、上記の利用目的のために患者さんの個人情報を利用することに対して同意が得られたものとさせていただきます。

臨床研究に関するご案内URL <http://www.med.kagawa-u.ac.jp/hosp/about/rinsyo/>

イベントカレンダー H30.9~10月 予定表

月日	時間	場所	名称及び内容	担当	連絡先
9/2 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療-「手術で予防できる脳卒中」	総務課	(087)891-2008
9/6 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
9/20 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と看護師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
9/20 木	14:00~15:00	外来2階がん相談支援センター 面談室	カフェ「おリーぶ」 参加者でお茶を飲み語らう場です。	がん相談支援センター	(087)891-2473
10/4 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と医師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066
10/7 日	13:30~16:45	三木町防災センター	平成30年度日本肝臓学会 肝がん撲滅運動 市民公開講座	消化器内科	(087)891-2156
10/14 日	11:00~12:00	丸亀町レッツホール	イキイキさぬき健康塾-香川大学病院と最新医療- 「知らんけん 教えていた!!」香川の腎臓移植と膵臓移植	総務課	(087)891-2008
10/18 木	14:00~15:10	西1階カンファレンスルーム	【糖尿病教室】 管理栄養士と薬剤師が話をさせていただきます。	臨床栄養部	(087)891-2066

編集委員会 (50音順)

荒井(検査)、大高(医療支援)、加賀宇(総務)、岸野(病棟)、日下(副病院長)、笹川(放射線)、田川(管理)、田中(看護)、富田(経営)、濱本(外来)、芳地(薬剤)、横井(情報)、吉野(医事) [委員長 横見瀬病院長]